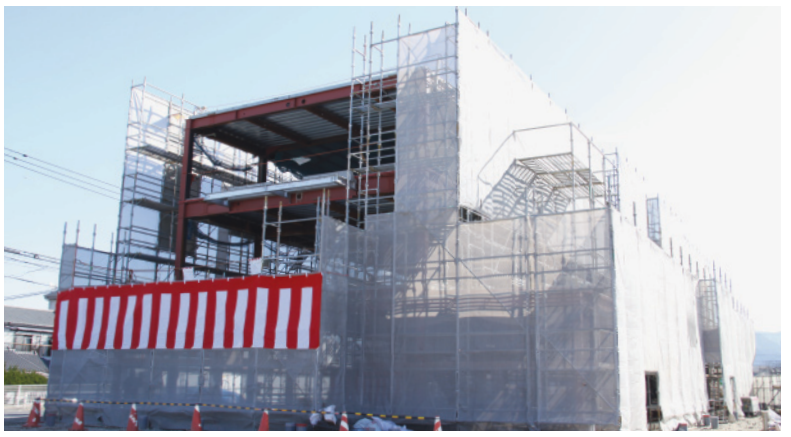
# 人と人がたすけあい・支えあう地域の再生をめざして

**世界的な大不況で、仕事を失い路上生活をせざるを得ない人たちが急増しています。このような状況を何とかしたいと考え、取り組んでいるのが「抱樸館」です。グリーンコープの運動の根幹にあるのは「生命（いのち）に寄り添うこと」。そのために大切なのが私たちが生活している地域。生命を大切にしてきたグリーンコープは、抱樸館を通して豊かな地域づくりをめざしていきます。**

ホームレス問題を考える 13

「抱樸館福岡」の完成予想図



建設がすすむ「抱樸館福岡」の全景（2月6日上棟式）

## 「抱樸館福岡」の上棟式が行われました！

昨年 10 月に建設が着工した「抱樸館福岡」は、2010 年 2 月 6 日に上棟式が執り行われました。式には、グリーンコープ共同体代表理事や各生協の理事長をはじめ、グリーンコープ生協ふくおかの組合員、社会福祉法人グリーンコープやＮＰＯ法人北九州ホームレス支援機構の関係者、そして工事関係者など、約 100 人が参加しました。しんしんと底冷えのする寒さの中、路上での生活を余儀なくされている人たちへ思いを馳せながら、形になっていく「抱樸館福岡」をそれぞれの目に焼き付けました。

式の冒頭、施主である社会福祉法人グリーンコープの理事長行岡良治さんから、「工事がはじまって 4ヵ月、ここまで無事に辿りつきました。5 月の開所まで順調にすすみ、この寒さの中で生活している人たちの生命が守られ、自立していく施設となっていくことを願っています」との挨拶がありました。続いて、グリーンコープ共同体代表理事田中裕子さん、グリーンコープ生協ふくおか理事長田原幸子さん、ふくおかネットワークの代理人山本まりさんの３人からは、これまで頭の中に思い描いてきた「抱樸館福岡」が現実のものになっていく姿を目の当たりにした感動や、組合員としてのそれぞれの立場から積極的に「抱樸館福岡」にかかわっていこうという思いが語られました。

当日は来賓として、地域の町内会長が臨席。「できれば地域の中にこのような施設はない方がいい。しかし、今の厳しい社会状況の中では必要になっていることも理解できる。であれば共に生きる地域の住人として、路上で生活する人たちの自立を応援していきたい」という趣旨の挨拶がありました。

その後、設計事務所から「抱樸館福岡」の建築概要について、詳細な説明がありました。鉄骨耐火構造の３階建ての建物に使用する設備の一つひとつまでに温かさが込められているようすがうかがえました。終盤の餅まきには、グリーンコープらしく産直赤とんぼもち米と紅麹（天然色素）を使った紅白の餅が使われていました。

最後に、社会福祉法人グリーンコープ副理事長奥田知志さんから「手足の感覚がマヒしてしまうほどの寒さの中で上棟式を無事に終えることができました。この寒空の下で息絶えている路上生活者がいます。彼らが味わっている寒さを身をもって体感したのは、大変意味があったのではないでしょうか。だからこそ、ここは“いのちを守り育てる場所”でありたい。それをめざしたいと思います」との挨拶がありました。

５月から自立支援をすすめていく本格的な取り組みがはじまります。参加者一同、そのことを強く再認識しました。

建設中の内部を見学する参加者

### 抱樸館福岡とは

今や失業者の数は40万人とも言われています。社会的格差の拡大によって路上生活者や自殺者も過去にないほど増加しており、深刻な社会状況となっています。

「路上で生活せざるを得ない人たちをたすけたい…」。「抱樸館福岡」は、路上で生活している人たちの文字通り「ハウス」となり、そこに住んでいる人たちと地域の人たちとがつながる「ホーム」となるよう、願いを込めて建設がすすめられています。入所期間は原則６ヵ月。生活保護の申請、就職や住まいの斡旋などを行い、入所者が自立した生活を送れるように支援します。自立後も継続的にサポートし、「ホーム」として支え続けていくことをめざします。ＮＰＯ法人北九州ホームレス支援機構の協力を得て、社会福祉法人グリーンコープが運営し、それをグリーンコープは応援していきます。

### 「抱樸館を支える会」を設立します

生活困窮者の支援事業というのは、一つの組織の力だけで経営できるものではありません。これまでは行政が税金を投入して行う福祉の一環として実施されてきました。しかし、行政におまかせするのではなく、私たちは「共助」「たすけあい」の力ですすめていきたいと考えます。人が人間らしく生きあっていくために、グリーンコープは人間の善意でよって支えられる事業にしたいと考え、高齢者福祉や子育て応援の取り組みと同じように、ホームレス問題も「連帯」と「共助」を支えに取り組むことにしました。

施設の運営に関する費用は多くの人の善意で賄いたいと考えています。建設直後から発生する減価償却費、日常の運営費など抱樸館機能を十分に発揮していくための資金は継続的に必要になってきます。従って、組合員からの善意が有効に活用できるように、課税のない非営利徹底型の一般社団法人を立ち上げることにしました。年会費という形で組合員の有志を募ります。取引先の方や賛同される団体や個人の方にも会員になっていただく方法も提案しています。既に運営している「抱樸館下関」や、今後抱樸館が各地域に広がっていくことを想定し、その取り組みに有効に使うことを考えて、「抱樸館を支える会」としました。

「抱樸館を支える会」は、同じ地域に生きる人間同士がたすけあい、支えあう組織としてグリーンコープのエリアでの展開をめざします。５月に開所する「抱樸館福岡」はその第一歩。年間１８０～１９０人が入所し、地域に育まれながら自立をめざします。

### 誰もが幸せになれる地域の拠点に

福岡市には、現在１，０００人を超すホームレス者がいると言われています。「抱樸館福岡」の開所はほんの少しの光でしかありませんが、ここがホームレス問題を解決する起点になればと考えています。抱樸館福岡のあるグリーンコープ生協ふくおかでは、地域の組合員と共に「人と人とが生活していく地域」をつくっていく、その試みがはじまります。「生協のおまつりができるね」「小さな子どもを連れたママたちの居場所になれば…」「子どもからお年寄りまで集える場にしたいね」と地元の組合員の夢は膨らみます。地域に暮らす人と人との絆を取り戻す場にしたいと考えています。そして、この取り組みを地域社会を取り戻す運動のうねりへとつなげていきたいのです。たすけあいという名の下に、豊かな人間関係を紡ぎだしていくことは、私たちの未来を切り開いていくことを意味しています。